

みんなで目指そう！洞爺湖町の脱炭素社会

VOL.2 産業振興課ゼロカーボン推進係（☎74-3005）

第2回のテーマは「脱炭素」についてです！！

地球温暖化による気候変動が懸念される中で、「脱炭素」という言葉を耳にする機会が増えてきました。ニュースでよく耳にしますが、何を指す言葉なのか、一体何のことなのか簡単にわかりやすく説明します。

「脱炭素」とは温室効果ガスの実質ゼロを目指すことです。

脱炭素とは、地球温暖化の原因となる代表的な温室効果ガスである二酸化炭素の排出量をゼロにしようという取り組みのことです。また、二酸化炭素排出が実質ゼロになった社会のことを「脱炭素社会」といいます。

地球温暖化の加速を受けて、世界全体で脱炭素に向けた取り組みが行われています。

日本においては、2020年10月に当時の菅義偉内閣総理大臣が「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」と、所信表明演説の中で述べました。

「なぜ世界は脱炭素を目指しているのでしょうか」

どうして、今世界中で脱炭素に向けた取り組みが行われているのでしょうか。大きな理由として「地球温暖化による気候変動」、「化石燃料の資源がなくなるため」の2点が挙げられています。

①「地球温暖化による気候変動」

18世紀の産業革命以降、石炭や石油などの化石燃料を大量に燃やすようになったことで、人類の二酸化炭素排出量は急激に増加しました。二酸化炭素は地表の熱が宇宙に逃げることを妨げる「温室効果」という働きを持っています。そのため、大気中の二酸化炭素が増えることで、地球温暖化が加速しているものと考えられています。

地球の温度が上昇すると、海面上昇や酸性化、洪水や干ばつなど、自然環境や私たちの生活にも大きな影響をもたらすといわれています。地球温暖化の対策を講じることは、人類の急務ともいえます。

②「化石燃料の資源がなくなるため」

人類が経済活動に使用しているエネルギー資源は、石炭、石油のほか、天然ガス、原子力発電の燃料であるウランなどがあります。私たちの生活に欠かせないこれらの化石資源ですが、実は、近い将来に枯渇すると予測されています。2019年時点で、石油と天然ガスは50年、ウランは115年、石炭は132年が寿命と考えられています。このことから、化石燃料に代わるエネルギー資源の確保が急がれています。

脱炭素は、近年世界中の国々で行われている取り組みで、もちろん日本も例外ではありません。日本は現在、年間で12億トンを超える温室効果ガスを排出しており、2050年までにこれをゼロにすることを目標としています。また、これらの温室効果ガスの6割は、日常生活から排出されているという分析もあります。国や企業だけが取り組むべき問題ではなく、私たち一人ひとりの意識改革が必要となってきます。

大がかりな取り組みでなくても、プラスチック製品を使わないといった小さな取り組みでも十分です。脱炭素の実現に向けて、日頃のライフスタイルの見直しから始めてみませんか。

次号に続く！ 次回のテーマは、「私たちにできる対策」についてです。